

クロアチア情勢

主な出来事

2016年3月

内政

- 1日、シュンドフ・クロアチア軍参謀総長就任。交替式には、グラバル＝キタロビッチ大統領（兼クロアチア軍最高司令官）、ロブリッチ前参謀総長、ライネル議会議長、ブリエビッチ国防相らが出席した。
- 4日、政府は、安全保障上又は人道上的理由において必要な場合、国境警備を行っている警察を支援するため、軍の国境への派遣を可能にする「国境管理法」および「国防法」改正法案を閣議決定。21日、議会において同改正法案が採択された。その後29日、野党第1党社会民主党（SDP）議会議員グループは、右2改正法の合憲性を審査するよう憲法裁判所に要請書を提出。
- 4日、議会は、ラドマン・クロアチア国営放送（HRT）社長の解任を決定し、コバチッチHRT編集局長（クロアチア報道・広報者協会（HNIP）会長）を同社長代行に指名。
- 4日、オレシュコビッチ首相は、プリズ前地域開発・EU基金省次官（無所属）を、首相府統合長官（Chief Integration Officer: CIO）兼首相経済顧問に任命。また9日、フィチ元ヨシポビッチ前大統領選挙スタッフ（メディア顧問）を首相内政顧問に任命。
- 10日、閣議において、2016年度予算案が承認。21日、議会通過。
- 15日、オレシュコビッチ首相は、1月に辞任したツルノヤ退役軍人相の後任に、メドベド准将（退役軍人）を候補として任命。21日、議会にて同候補への信任投票が実施され、賛成88、反対30、棄権15で承認された。
- 15日、オレピッチ内相は、ベルティナ国家警察汚職・組織犯罪対策本部（PNUSKOK）長官を解任した旨発表。
- 22日、ブリュッセルで発生したテロ事件を受けて、クロアチア警察は国内の警戒レベルを1段階引き上げレベル3とした。
- 25日、グラバル＝キタロビッチ大統領およびオレシュコビッチ首相は、治安・情報庁（SOA）新長官にマルキッチSOA国際協力部長を推薦。また、国家安全保障会議事務局（UVNS）の新局長にシムノビッチ現駐イスラエル大使を推薦。
- 30日、クロアチア石油公社（INA）は、アルドットINA取締役会会長の任期を1年間延長（再任期間：2016年4月1日～2017年3月31日）。
- 31日－4月1日、オレシュコビッチ首相は、ブコバル・スリエメ県を公式訪問。「祖国防衛戦争」戦没者記念墓地、オブチャラ記念墓地、ブコバル市等を訪問した。

外交

- 1日、オレシュコビッチ首相(コバチ外務・欧州問題相同行)は、就任後初の訪独を行い、メルケル独首相と会談。
- 2日、オレシュコビッチ首相は、当国訪問中のトゥスク欧州理事会議長と会談。欧州の難民・移民問題につき協議。
- 2日、カラマルコ第一副首相およびペトロフ副首相は、当国訪問中のハックスタイン米 국무省国際エネルギー担当特使・調整官とそれぞれ会談。クルク島LNGターミナル建設プロジェクトにつき協議。
- 5日、コバチ外務・欧州問題相は、独ルートビヒスハーフェンを訪問し、コール元独首相と同元首相自宅にて会談。
- 7日、オレピッチ内相は、ハンガリーを訪問し、ピンタル・ハンガリー内相と会談。昨年後半からの難民危機を受けて閉鎖されていたクロアチア・ハンガリー間鉄道国境再開(8日から運行再開)を歓迎した。8日には、両国外務省の共同声明が発出され、鉄道運行再開は両国間関係の改善を示す最初の指針である旨述べた。
- 7-8日、オレシュコビッチ首相は、難民問題について協議するEU・トルコ首脳会合出席のためブリュッセルを訪問。
- 7-8日、ブリエビッチ国防相は、コソボを公式訪問し、ヤヒヤーガ同大統領、ムスタファ同首相およびデモリ・コソボ治安部隊(KSF)省大臣(国防相に相当)と会談。また、ミグリエッタ・コソボ国際安全保障部隊(KFOR)司令官とも意見交換した。
- 8日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、当国公式訪問中のボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)大統領評議会メンバー(チョービッチ議長、イゼトベゴビッチおよびイバニッチ同メンバーの3名)と会談。また、コバチ外務・欧州問題相は、ツルナダクBH外相と会談した。翌9日、BH大統領評議会メンバーは、オレシュコビッチ首相(カラマルコ第一副首相およびペトロフ副首相同席)およびライネル議会議長と会談した。
- 9日、グラバル＝キタロビッチ大統領およびブリエビッチ国防相は、当国訪問中のヨレフスキー・マケドニア国防相と会談。
- 10-11日、オレピッチ内相は、EU司法・内務理事会出席のため、ブリュッセルを訪問。
- 11日、コバチ外務・欧州問題相は、当国訪問中のイェルコビッチ・スルプスカ共和国(RS)副大統領(クロアチア系)およびチオルダシュRS難民・避難民相と会談。
- 11日、クロアチア・スイス政府間の合意に基づき、クロアチア国籍保持者は、同日以降、観光目的でのスイス入国に際し、旅券の提示が免除される(IDのみで入国可能)こととなった。
- 13日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、ヨルダンを訪問し、アブドッラー2世ヨルダン国王と会談。
- 14日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、当国訪問中のチャールズ英皇太子およびカミラ妃と会談し、公式晩餐会を開催。また、オレシュコビッチ首相も首相府において皇太子夫妻と会談した。15日、皇太子夫妻は、当国東部オシエクおよびジャコボを訪問した。
- 14日、コバチ外務・欧州問題相は、EU外務理事会出席のため、ブリュッセルを訪問。

- 15日、プポバツ議員(独立セルビア人民民主党(SDSS)副党首、セルビア民族評議会(SNV)議長)は、セルビア・ベオグラードを訪問し、ブチッチ・セルビア首相と会談。
- 16日、グラバル＝キタロビッチ大統領、オレシュコビッチ首相およびライネル議会議長は、当国訪問中のブルグレス・スロベニア国会議長とそれぞれ会談。ライネル議会議長は、スロベニアとの国境画定問題は、国際法に準じて、二国間交渉によって解決策を見出したい旨述べた。
- 16日、外務・欧州問題省は、ニューヨークの国連代表部を通じて、クロアチア・スロベニア間の国境画定仲裁プロセスに対するクロアチアの立場を説明する声明を国連加盟国に伝達。
- 17日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、イバノフ・マケドニア大統領と電話会談を実施。マケドニア・ギリシャ国境における難民・移民の越境事件について協議した。
- 17－18日、オレシュコビッチ首相は、欧州理事会出席のためブリュッセルを訪問。18日、欧州理事会は「EUトルコ声明」を発出し、トルコからEUへの非正規渡航を終結させるためのEUおよびトルコ間で合意された行動ポイントを発表した。
- 18日、ハーグの常設仲裁裁判所(PCA)は、クロアチア・スロベニア国境画定問題の審理停止決定を発表。外務・欧州問題省は、「クロアチアは、善隣関係の精神と国際法に則り、二国間交渉を通じて、スロベニアと国境問題を解決することを望む」旨の声明を発出。
- 18日、当国北部バラジュディンにおいて、グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領、パホル・スロベニア大統領およびフィッシャー・オーストリア大統領による3者首脳会合開催。
- 21－23日、グラバル＝キタロビッチ大統領(21日)およびオレシュコビッチ首相(22日:ペトロフ副首相、ホルバット中小企業相、オレピッチ内相およびブトコビッチ海事・運輸・インフラ相同席)は、当国訪問中のイルヴェス・エストニア大統領と会談。
- 21日、コバチ外務・欧州問題相は、当国訪問中のカリュランド・エストニア外相と会談。
- 22日、グラバル＝キタロビッチ大統領、オレシュコビッチ首相、コバチ外務・欧州問題相らクロアチア政府要人は、同日ブリュッセルで発生したテロ事件に対する非難および追悼の意を表明。翌23日、コバチ外務・欧州問題相およびユリチッチ大統領府長官は、同テロ事件の犠牲者弔問のため、当地ベルギー大使館において追悼帳に記帳した。また、クロアチアは24日を同テロ事件の犠牲者追悼のための服喪の日とし、同日オレシュコビッチ首相は駐ベルギー大使公邸を訪問し、追悼帳に記帳した。
- 22日、コバチ外務・欧州問題相は、スロベニアを訪問し、ツェラル・スロベニア外相と会談。またパホル同大統領とも会談した。
- 29日、ライネル議会議長は、当国来訪中のクリシュトBH下院議長(クロアチア民主同盟BiH(HDZ・BiH)所属)と会談。
- 30－31日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、プレヴネリエフ・ブルガリア大統領の招待を受けて同国を公式訪問。両大統領は、ブルガリア・クロアチア・ビジネスフォーラムに出席(31日)。ボリスフ同国首相とも会談した(31日)。
- 31日－4月1日、コバチ外務・欧州問題相は、オーストリアを公式訪問し、クルツ外相およびミクルライトナー同内相らと会談(4月1日)。

経済

- 4日、クロアチア統計局は2015年10－12月期の実質GDP成長率確報値を公表。昨年第4四半期は対前年比で1.9%となり、5四半期連続のプラス成長となった。右成長の主な要因は、家計最終消費支出の伸びおよびサービスの輸出（観光収入）増による。2015年通年としても1.6%と2009年以降6年間のマイナスからプラス成長に転じている。
- 12日、信用格付企業ムーディーズは、クロアチアのソブリン格付けを公表。高い公的債務残高（昨年末時点で対GDP比約86%、2018年には90%超と予測）および中期成長見通しの弱さを踏まえ、公的債務残高外貨建て発行体は「Ba1」から「Ba2」（いずれも投機的等級）、自国通貨建てを「A3」（投資適格程度）から「Baa1」（中程度のリスク）とそれぞれ引き下げた。見通しについては「ネガティブ」のまま据え置いた。
- 21日、クロアチア議会は2016年予算案を採択（賛成80票、反対51票）した。右によれば本年歳出は1,224億クーナ（前年比3.2%増）、同歳入は1,149億クーナ（前年比4.7%増）となり、財政赤字の対GDP比は2.2%となる見込み。
- 23日、クロアチア政府は、4月1日より家庭用天然ガス価格を18%程度値下げ決定。かかるガス価格の引き下げは欧州市場におけるガス卸売価格の下落を反映したものであり、その負担はガス供給者（INA等）・卸売業者（HEP）・小売業者が負うこととされている。
- 31日、欧州復興開発銀行（EBRD）はクロアチア高速道路公社（HAC）に対し2.5億ユーロ（約320億円）の融資を行う契約に署名した。右融資のうち2億ユーロは本年中に期限を迎える同公社の債務の補填に充てられ、残り0.5億ユーロは同公社の事業効率化資金として活用される。

主要経済指標

（2016年月次データ、対前年同期比（除く失業率）、政府統計局発表）

輸出総額 （1月）	輸入総額 （1月）	貿易赤字 （1月）	工業生産高 （2月）	インフレ率 （2月）	失業率（登録制） （2月）
+3.4% （58.6 億クーナ, 7.7 億ユーロ）	+10.0% （97.3 億クーナ, 12.7 億ユーロ）	+21.9% （38.7 億クーナ, 5.0 億ユーロ）	+4.4% （1月9.3%）	-1.4% （1月:-0.9%）	17.8% （1月:18.5%）

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。